

# 【外国語・中1・「Unit7 アメリカの学校」】①

## 育成を目指す資質・能力

**（知識及び技能）** 疑問詞when、where、howの特徴やきまりを理解することができる。また、身近な人物について考えたことや感じたことなどを、疑問詞when、where、howなどを用いてインタビューしたり、それについて応えたりすることができる。

**（思考力、判断力、表現力等）** A L Tに身近な人物の意外な一面を知ってもらうために、自分が考えたことや感じたことを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

**（学びに向かう力、人間性等）** A L Tに身近な人物の意外な一面を知ってもらうために、自分が考えたことや感じたことを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

## ICT活用のポイント

フラッシュカード機能を活用した「発音練習」と、学習支援ソフトを活用した「考えの共有・比較からの言語活動」

### 【つかむ】

「友達にインタビューを行い、そこから得た友達の意外な一面をA L Tに伝える」という単元のゴールを知る。

### 【追究する】

単元のゴールに向けて、参考になる英文を教科書から探しながら、言語活動（インタビュー）を行う。

### 【まとめる】

言語活動から得た情報が蓄積されたメモをもとに、A L Tに向けて伝えたり、質問に答えたりする。

## 事例の概要

○ 「試しの活動」を動画として記録し、自分の姿を客観的に見つめ、自己調整を図る。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

○ 「単語」「スピード」「日本語表示」「英語表示」等を各生徒が選択し、自分にあったペースで練習を行う。また、気になる単語は「覚えていない単語」のボタンにチェックを入れ、家庭での学習につなげる。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

○ 単元ゴールに向けて、インタビューやその回答等で参考になりそうな英文を、デジタル教科書上にラインを引き、学習支援ソフトを通して、全体で共有・比較しながら、その後の言語活動へとつなげる。

○ インタビューで得た情報をキーワード化し、学習支援ソフトを通してマッピングとして書きためたり、言語活動を行いながら、再構成したりする。

○ 家庭学習において、プレゼンテーションソフトを用いながら、A L Tに伝えたい視覚的情報（写真など）をまとめる。

○ マッピングのキーワードやプレゼンテーションソフトを用いながら、A L Tに発表を行う。また、その活動を動画として記録し、自分の変容を感じながら振り返りを行う。

# 【外国語・中1・「Unit7 アメリカの学校」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】

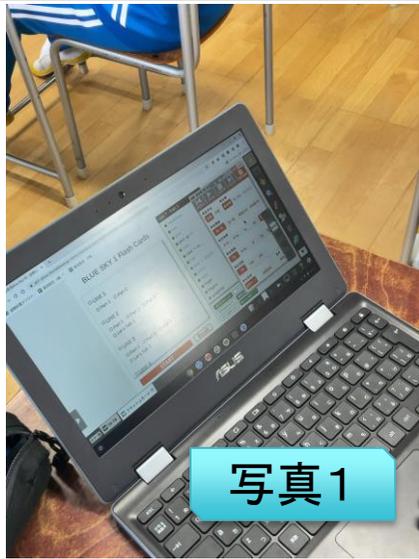


写真1



写真2

### 【写真1】

個別最適な学びとして、新出語句を定着させるためにデジタル教科書（学習者用）のフラッシュカード機能を活用し、生徒一人一人が自分の学びに合わせて「練習したい語句」「スピード」「日本語表示」「英語表示」などを選択している。

### 【写真2】

教師は各生徒の状況を確認したり、気になる生徒については、個別に支援をしたりしている。また、フラッシュカード機能にある「覚えていない単語」ボタンを活用し、必要に応じて家庭学習へとつなげている。

新出語句等の導入については、教科書本文を聞いたり、読んだりする際に、「場面の状況」、「前後の文脈」、「文中の前後の単語」から、単語の意味を類推させた後、この活動を行っている。

## 【事例におけるICT活用の場面②】

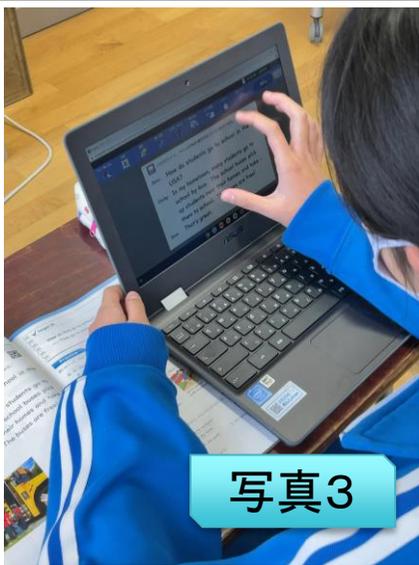


写真3

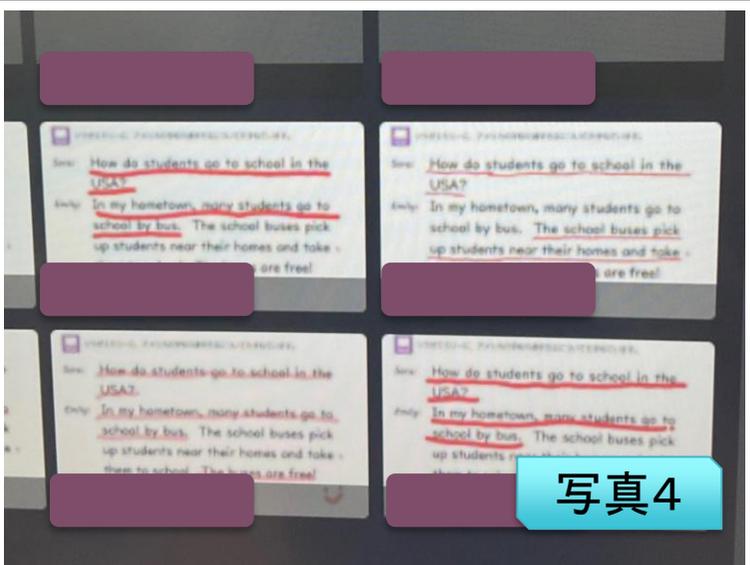


写真4

### 【写真3】

教科書の読解をする際、単元のゴールに向けて、参考になりそうな英文に対して、ラインを引いている。

### 【写真4】

協働的な学びとして、学習支援ソフトを通じて、各自が引いたラインの箇所を提出させ、全体で共有・比較している。また、その英文を参考にして、どのような質問を行うかを出し合わせ、その後の言語活動につなげている。

- ・デジタル教科書
- ・プレゼンテーションソフト
- ・カメラ機能
- ・学習支援ソフト